

高校生が海外取材！ 第10回 インドネシア 社会インフラプロジェクト



暮らしに必要な事業で国の発展に貢献

事業を解説する伊勢田代表

三菱商事が海外で展開するプロジェクト現場を高校生が訪問・取材し、レポートする「海外プロジェクト探検隊」。第10回の今回は、日本各地から集まった高校生8人が8月20日から5日間、アジアの中で成長を続けているインドネシアを訪れた。三菱商事が関わっている事業の中から、地熱発電所や自動車産業、コンビニ事業を見学し、インドネシアの社会インフラ事情について知識を深めた。

三菱商事の幅広い事業

資源からコンビニまで多様

ジャカルタ郊外のスカルノハッタ空港に到着した高校生たちは、初めて訪れたインドネシアの空気を胸いっぱい吸い込み、バスで三菱商事ジャカルタ駐在事務所へ向かった。空港からの道のりでは、ジャカルタ名物の大渋滞の手荒れ出迎えを受けたが、高校生たちは長旅の疲れも見せず、伊勢田純一・インドネシア総代表などから、三菱商事が手がける事業内容

参加した高校生リポーター

- | | | | | |
|-----------|--|---|---|---|
| 後列
左から | たはら だいすけ
田原 大樹さん
(慶應義塾
高等学校3年) | よしもと りょう
吉本 竜さん
(江戸川学園
取手高等学校2年) | さわだ ゆうき
澤田 勇輝さん
(徳島県立
城東高等学校1年) | しまづ ゆうすけ
島津 佑輔さん
(長岡工業
高等専門学校1年) |
| 前列
左から | いづみ まこと
椎名 真与さん
(千葉県立幕張総合
高等学校1年) | さきぎ かなえ
佐々木 香菜江さん
(岩手県立
盛岡南高等学校3年) | いけまつ あやみ
池松 彩果さん
(東京都立
国際高等学校3年) | まちもと えり
町元 恵瑠さん
(福岡県立
小倉高等学校2年) |

以上のメンバーが多数の応募者から選ばれました

天然資源を活用 発展支えるインフラ事業



～世界の仕事現場を見に行こう～

世界有数の地熱発電所

燃料費・CO2排出ゼロで注目

翌日、ジャカルタからバスで約5時間のワヤン・ウィンドゥ地熱発電所を訪れた。標高約1800m、茶畑に囲まれたどかな山あいにも、もくもくと天然の蒸気が噴き上がる。三菱商事が出資するスターエネジー社が運営する、世界有数の地熱発電所だ。現在の発電容量23万kWを、最大40万kWまで拡張する予定だ。

高校生たちは、三菱商事の東南アジアでの電力事業を手がける「ダイアモンド・ジェネレーター・アジア」の小牧広宣・ジャカルタ事務所長の説明を受けながら、発電所内を見学。現地職員に英語で次々と質問す

るなど、燃料費と二酸化炭素(CO2)排出量がゼロで、クリーンな発電として注目される地熱発電に高い関心を示していた。東日本大震災で被災し、発電事業に興味を持ったという岩手県立盛岡南高校3年の佐々木香菜江さんは「環境面で周辺への配慮もすっかりなされていた。

予想していたより大規模な発電所だ。働いている方もフレンドリーだった」と笑顔を見せた。慶応義塾高校3年の田原大樹さんは「燃料費ゼロで、半永久的に使える点がすごい。日本では、地元の理解などハードルは高そうだが、もっと活用すべき」と話していた。

地熱発電 井戸を掘削し、地下深くのマグマで熱せられた高温の蒸気を取り出してタービンを回す発電方法。火山国の米国やインドネシア、日本などが豊富な地熱資源を持つ。環境への負荷が少ない。天候に左右されず、安定的に発電できることから、再生可能エネルギーの中核として普及が期待されている。



▲小牧さん(左端)の案内で地熱発電所内を見学。巨大なプラントを見上げ、仕事のスケールの大きさに感動



①地熱発電の仕組みを聞く高校生。現地職員に英語で質問
②避暑地でもあるさわやかな高原にあり、環境に配慮した美しい発電所としても知られる

生活の基盤「足」と「食」

消費者の信頼得て発展中

安いインドネシアでは、機械化を抑えた方がコストが低いことを知った。従業員が日本で研修を受けるなど、技術向上への取り組みも充実していた」と感慨深げだった。

続いて、三菱自動車及び三菱ふそうの乗用車やトラックなどの輸入・販売総代理店KTBを訪ねた。社長が「これだけ若い方たちの訪問を受けたのは初めて」と歓迎した。KTBはインドネシア中に販売ネットワークを巡らせ、きめ細やかなアフターサービス体制を築いた



KRMの和田さん(右端)が製造ラインを解説



林さん(左端)とローソン店内を視察

とで消費者の信頼を勝ち得てきた。特にトラックでは圧倒的なシェアを誇る。KTB本社に併設する模擬ショールームは、ディーラーの質向上のため、研修の場として使われている。接客やショールームのディスプレイ方法などについて学ぶ様子を見

学。その後、社員食堂で、KTBの現地職員と一緒に昼食をとりながら交流した。徳島県立城東高校1年の澤田勇輝さんは、「ショールームは日本と同じぐらい洗練され、丁寧な接客だった。現地生産の車を現地ディーラーが販売している、地元で溶け込んでいることが分かった」と現地で的好調な売れ行き理由に納得した様子だった。

次の現場は、経済発展に伴って盛り上がる消費の最前線だ。ローソン海外事業部の林雄一郎の案内のもと、ジャカルタを中心に63店舗を展開するローソンの店舗を訪れた。広い店内にはイートインコーナーが設けられ、店内で調理された「弁当」

現地生徒の熱意に触発

音楽など国境越えて話題共有

ジャカルタの高校「ラプスクール・ケイパヤラン」も訪れ、交流を深めた。同校生徒によるインドネシア伝統の踊りで出迎えられる、教室や図書館など校舎内を見学。体育館に集まった数百人の生徒を前に、緊張した面持ちだったが、日本の人気アイドルグループ「AKB48」の曲に合わせてダンスを披露すると、数百人の生徒は総立ちとな



思い出のショットは恋顔！

その後は、スマートフォンを使って記念撮影したり、メールアドレスを交換するなど、短い



現地の高校生も飛び入り参加！人気アイドルの曲と一緒に踊った

海外プロジェクト探検隊

三菱商事の海外事業や現地の文化を体験

■「海外プロジェクト探検隊」とは

このプロジェクトは、一般から公募した高校生をリポーターとして海外に派遣し、現地で体験した内容をヨミウリ・オンラインで発表してもらうシリーズ企画。今回の「インドネシア 社会インフラプロジェクト」は10回目となる。現地では、三菱商事が展開しているプロジェクトの現場を訪問するほか、現地の学生との国際交流や生活文化など、さまざまなプログラムを体験。未来の日本を担う高校生たちに、総合商社の仕事や異文化への理解を促し、今後社会で活躍するための糧となることを目指している。

■体験ツアー報告会

11月9日、第10回インドネシア体験ツアーの報告会が東京・丸の内三菱商事本社で開催された。高校生たちは体験したプログラムをレポートし、インドネシアで展開する三菱商事のプロジェクトを中心に、現地で学んだことや感じたことなどを発表した。打ち解けた雰囲気の中、三菱商事の社員と高校生たちが、ツアーの思い出や発表したレポートの感想などを語り合った。



③緊張の面持ちで各自工夫をこらしたプレゼンシートで、体験の臨場感が伝わる報告を心がけた

高校生のレポートは
公式サイトで公開中！

<http://www.tanken-tai.jp>